

安全データシート

作成日 2002年9月1日
改定日 2010年5月1日
2015年2月2日

製品名 : ポリ硫酸第二鉄液

製品及び会社情報

製品名	ポリ硫酸第二鉄液
会社名	埼玉薬品株式会社
住所	埼玉県さいたま市見沼区卸町1-43
電話番号	048-686-5221
FAX番号	048-686-3332
推奨用途	生活排水処理、産業排水処理
整理番号	AHM-0926

危険有害性の要約

GHS分類

火薬類	:分類対象外
可燃性／引火性ガス	:分類対象外
可燃性／引火性エアゾール	:分類対象外
支燃性／酸化性ガス類	:分類対象外
高压ガス	:分類対象外
引火性液体	:区分外
可燃性固体	:分類対象外
自己反応性化学品	:分類対象外
自然発火性液体	:区分外
自然発火性固体	:分類対象外
自己発熱性化学品	:区分外
水反応可燃性化学品	:分類対象外
酸化性液体	:区分外
酸化性固体	:分類対象外
有機化酸化物	:分類対象外
金属腐食性物質	:分類できない
急性毒性(経口)	:区分5
急性毒性(経皮)	:分類できない
急性毒性(吸入:気体)	:分類対象外
急性毒性(吸入:蒸気)	:分類対象外
急性毒性(吸入:粉塵)	:分類対象外
急性毒性(吸入:ミスト)	:分類できない
皮膚腐食性／刺激性	:区分1C
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	:区分1
呼吸器感作性	:分類できない
皮膚感作性	:分類できない
生殖細胞変異原性	:分類できない
発がん性	:分類できない
生殖毒性	:分類できない
標的臓器・全身毒性(単回暴露)	:分類できない
標的臓器・全身毒性(反復暴露)	:分類できない
吸引性呼吸器有害性	:分類できない
環境に対する有害性	
・水生環境有害性(急性)	:区分外
・水生環境有害性(慢性)	:区分3

・GHSラベル要素

:



・注意喚起語

:危険

・危険有害性情報

:飲み込むと有毒(経口)

:重篤な皮膚の葉傷・眼の損傷

:長期的影響により水生生物に有害

・注意書き

:【安全対策】

・使用前にMSDSを読み安全注意を理解するまで取扱わないこと。

・他の容器に移し替えないこと。

・取扱った後は、手、顔などをよく洗うこと。

・指定された個人用保護具(安全帽、保護眼鏡、保護面、呼吸器用保護具、保護手袋、保護衣、保護長靴など)を着用すること。

・この製品を使用する時には、飲食及び喫煙をしないこと。

・環境への放出を避けること。

:【救急処置】

・飲み込んだ場合には、飲料水を大量に飲ませること。

・吸入した場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

・眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて安易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

・皮膚(または毛)にかかった場合は、直ちに汚染された衣類を全て脱ぎ、皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。

・汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。

・皮膚に付着した場合、目に入った場合、飲み込んだ場合、吸入した場合は、直ちに医師に連絡すること。

:【保管】

・耐腐食性／耐腐食性内張りのある容器に保管すること。

・施錠して保管すること。

:【廃棄】

・内容物または容器を廃棄する場合は、都道府県の規則に従うこと。

・使用済みの容器は、他の用途に使用しないで適正に廃棄すること。

組成、成分情報

化学名又は一般名 :ポリ硫酸第二鉄(Poly ferric sulfate)

化学式 : $Fe_2(OH)_n(SO_4)$

化学特性(化学式又歯構造式) :画像なし 非公開

官報公示整理番号 :化審法:1-359 安衛法 既存

CAS番号 :10028-22-5

化管法 :該当なし

分類に寄与する不純分及び安定化添加物 :情報なし 非公開

濃度又は濃度範囲 : Fe^{3+} 11%以上 SO_4 24~29% H_2O 60~65%

応急処置

吸入した場合 :新鮮な空気が得られる場所に移し、医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合 :直ちに汚染された衣類をすべて脱ぎ又は取り除くこと。

目に入った場合	<ul style="list-style-type: none"> :直ちに医師に連絡すること。 :皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。 :医師の手当、診断を受けること。 :直ちに大量の清浄な流水で15分以上洗う。まぶたの裏まで完全に洗う。 :コンタクトレンズを使用している場合は、固着していないかぎり、取り除いて洗浄を続ける。
飲み込んだ場合	<ul style="list-style-type: none"> :できるだけ速く医師の診断を受ける。 :直ちに医師に連絡すること。 :飲料水を大量に飲ませること。
最も重要な徴候及び症状	:情報なし
医師に対する特別な注意事項	:情報なし

火災時の措置

消火剤	:この製品自体は、燃焼しない。
使用してはならない消火剤	:該当しない。
火災時の特有の危険有害性	:火災によっては刺激性、腐食性のガスを発生する恐れがある。
特有の消火方法	<ul style="list-style-type: none"> :危険でなければ火災区域から容器を移動する。 :消化活動は、有効に行える最も遠い距離から、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。 :消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
消火を行う者の保護	:保護手袋、保護眼鏡、保護手袋、呼吸器等の保護具を着用する。

漏出時の措置

人体に対する注意事項	<ul style="list-style-type: none"> :直ちに全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 :作業時には、保護眼鏡、保護手袋等の保護具を必ず着用する。 :風下の人を避難させる。漏出した場所周辺にロープを張り、関係者以外の立ち入りを禁止する。
環境に対する注意事項	<ul style="list-style-type: none"> :密閉された場所は換気する。 :環境中に放出してはならない。 :河川等に排出され、環境へ影響を起さないように注意する。
除去方法	<ul style="list-style-type: none"> :少量の場合は、漏洩物をバケツ等のプラスチック容器に入れ、出来る限り空容器へ回収し、回収不能分については、後で廃棄処理する。 :大量の場合は、土壌、盛土、溝を掘る等の手段で漏出を防止し、河川水田等への流出を極力防止する。万一、一般市民、水棲生物への影響が懸念される場合には、直ちに関係官庁、供給者へ連絡する。
二次災害の防止策	:排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流出を防ぐ。

取扱い及び保管上の注意

取扱い	<ul style="list-style-type: none"> :「暴露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い保護具を着用する。 :「暴露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。 :使用前に使用説明を入手し、すべての安全注意を読み、理解するまで取扱わないこと。 :接触、吸入又は飲み込まないこと。排気用の換気を行うこと。 :この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 :取扱い後はよく手を洗うこと。 :屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 :環境への放出を避けること。 :「安全性及び反応性」を参照。
保管	<ul style="list-style-type: none"> :SUS304グレード以上のステンレススチール、塩化ビニール、ポリエチレン、FRP、ゴムライニング容器等必要な強度をもった耐腐食性材質のタンクや容器に保管する。 :鉄、真鍮などの銅合金に対し、腐食性がある。

- :配管、接続部分にも耐酸性材質を使用する。また漏出事故の生じない構造や、万一漏出した場合にも速やかに対策の取れる装置的工夫を講じる。
- :冬季や気温が低い場所では凍結することがあるので保温が必要である。
- :酸化剤から離して保管すること。
- :施錠して保管すること。

暴露防止措置

- 許容濃度 :設定されていない。
- 日本産業衛生学会 :設定されていない。(2005年版)
- 管理濃度 :設定されていない。
- 設備対策 :この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
- 保護具
 - 呼吸器の保護具 :酸素呼吸器、防毒マスク
 - 手の保護具 :耐酸性(ゴム製)の手袋
 - 目の保護具 :保護眼鏡、顔面シールド等
 - 皮膚及び体の保護具 :安全靴、安全帽、保護衣、前掛け等
- 適切な衛生対策 :作業後、手をよく洗い、うがいをしてから、飲食等をする。

物理／化学的性質

- 形状 :赤褐色の液体
- 臭い :弱い薬品臭
- PH :2以上(1w/v%)
- 融点／凝固点 : $-12^{\circ}\text{C} \pm 1^{\circ}\text{C}$ (凝固点)
- 沸点 : 108°C
- 引火点 :非引火性
- 爆発範囲 :該当しない
- 蒸気圧 :データなし
- 蒸気密度 :該当しない
- 比重(密度) :1.45~1.49(20°C)
- 溶解度 :データなし
- オクタノール／水分配係数 :データなし
- 自然発火温度 :不燃性
- 分解温度 :データなし
- 臭いのしきい :データなし
- 蒸発速度 :該当しない
- 燃焼性(固体、ガス) :該当しない
- 粘度 :10-30mPas(20°C)

安定性及び反応性

- 安定性 :常温保管においては安定。
- 危険有害反応可能性 :次亜塩素酸ソーダ、サラシ粉、塩素系漂白剤と混合すると有害な塩素ガスを発生する。
- 避けるべき条件 :情報なし
- 混触危険物質 :次亜塩素酸ソーダ、サラシ粉、塩素系漂白剤。
- 危険有害分解生成物 :情報なし

有害性情報

- 急性毒性 :マウスのLD50値2000mg/kg以上より区分5に分類した。
:飲み込むと有害(経口)
:経皮 データがなく分類できない
:吸入(蒸気) データがなく分類できない
:吸入(粉塵) 分類外

皮膚腐食性／刺激性	: 本物質の皮膚腐食性・刺激性に関する試験データはないが、作業実績から区分1Cと指定される。 : 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
眼に対する重篤な損傷/刺激性	: 皮膚腐食性・刺激性を区分1Cに分類したことにより、区分1とした。 : 重篤な眼の損傷。
呼吸器感作性/皮膚感作性	: データなし
変異原性(生殖細胞)	: データなし
発がん性	: データなし
生殖毒性	: データなし
特定標的臓器/全身毒性(単回暴露)	: 分類できない
特定標的臓器/全身毒性(反復暴露)	: 分類できない
吸引性呼吸器有害性	: 情報がなく分類できない

環境影響情報

水生環境急性有害性	: 魚類(ヒメダカ)の96時間のLC50=200mg/Lから、区分外とした。
水生環境慢性有害性	: 急性毒性が区分外であるが、金属化合物であり水中での挙動及び生物蓄積性が不明であるため、区分3とした。 : 長期的により水生生物に有害。

廃棄上の注意

- ・廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性レベルを低い状態にする。水溶液は酸性を示すため、アルカリで中和した後処理すること。
- ・廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理をする。
- ・廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分に告知の上処理をする。
- ・容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
- ・空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

輸送上の注意

国際規制

海上規制情報	: IMOの規制に従う
UN No	: 3264
Proper Shipping Name	: CORROSIVE LIQUID, ACIDIC, INORGANIC, N. O. S.
Class	: 8
Packing Group	: III
Marine Pollutant	: Not applicable
航空規制	: ICAO/IATAの規定に従う
UN No	: 3264
Proper Shipping Name	: CORROSIVE LIQUID, ACIDIC, INORGANIC, N. O. S.
Class	: 8
Packing Group	: III

国内規制

陸上規制情報	: 非該当
海上規制情報	: 船舶安全法の規定に従う
国連番号	: 3264
品名	: その他の腐食性物質(無機体、液体、酸性のもの)
クラス	: 8
容器等級	: III
海洋汚染物質	: 非該当

航空規制情報	: 航空法の規定に従う
国連番号	: 3264
品名	: その他の腐食性物質(無機体、液体、酸性のもの)
クラス	: 8
容器等級	: III
特別の安全対策	: 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積込み、荷崩れの防止を確実に行う。 : 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 : 他の危険物や燃えやすい危険物に上積みしない。 : 他の危険物のそばに積載しない。

適用法令

- ・労働安全衛生法 : 名称等を通知すべき危険物及び有害物
(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)
(政令番号 第352号 鉄水溶性塩)
- ・船舶安全法 : 腐食性物質(危規則第2, 3条危険物告示別表第1)
- ・航空法 : 腐食性物質(施行規則第194条危険物告示別表第1)

その他

- ・記載内容の取扱い
全ての資料や文献を調査したわけではないため情報洩れがあるかも知れません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合には、出典等を良く検討されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。
なお、記載のデータや評価に関してはいかなる保証もなすものではありません。また、記載事項は通常の手扱いを対象としたものですので、特殊な取扱いをする場合には新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。製品の譲渡時にはMSDSを添付して下さい。